

平成29年9月1日

三木市議会  
議長 穂積豊彦様

民生生活常任委員会  
委員長 大眉均

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1. 参加者

大眉均（委員長）、岸本和也（副委員長）、草間透、  
大西秀樹、中尾司郎、穂積豊彦、内藤博史 計7名

2. 視察内容等

日 時	場 所	内容及び対応者
7月6日	11:00 ～12:00	あいとう エコプラザ 菜の花館  滋賀県 東近江市  地域資源循環システム 菜の花エコプロジェクト (対応者) あいとうエコプラザ菜の花館 館長 増田隆
	13:30 ～16:30	滋賀県 東近江市  東近江市版SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド) しごとづくり応援センター (対応者) まちづくり協働課長 曾羽道明 まちづくり協働課 主査 浅田幸宏 森と水政策課 課長補佐 山口美和子 商工労政課長 中西美智代 商工労政課 課長補佐 今岡大 議会事務局 書記 松村栄二
7月7日	10:00 ～11:30	滋賀県 守山市  中心市街地活性化基本計画 地域デマンド型交通「モーリーカー」 (対応者) 都市計画課長 川端和行 商工観光課 係長 吉原史雄 地域振興・交通政策課長 川嶋利明 地域振興・交通政策課 係長 木下勝幸 議会事務局 総務課長 藤下茂
	14:00 ～15:30	がんば カンパニー  滋賀県 大津市  就労継続支援A型作業所「がんばカンパニー」 (対応者) (福)共生シンフォニー 常務理事 中崎ひとみ

### 3. 所感

#### (1) あいとうエコプラザ菜の花館について（東近江市）

地域資源循環システム、菜の花エコプロジェクトの仕組みをはじめ、農業体験や農家民泊等の交流事業、新規就農支援事業など、市全体の農業振興につながる具体的な取組が非常に参考になり、また、それらの事業が、引きこもりや障がいのある方々の社会進出の場としても活用されている点にも目を引かれた。

三木市の農産物工房等においても、上記取組を試験的に行うことが可能かと考える。

#### (2) 東近江市版S I B (ソーシャル・インパクト・ボンド)について（東近江市）

市民協働の活動の資源と資金を結びつけ、新しいコミュニティビジネスの創造と地域振興につながるシステムであり、先進的な取組として参考になった。

市民の活動を市民が応援するという東近江市の風土が、事業の進化と成功に結びついていると考える。

事業者にとっては事業実施後に内容を評価されるというリスクが伴うが、事業者のスキルやモチベーションが高まり、またそれを市民などが応援するシステムは、多くの市民の関与を促すと共に地域型事業の継続性が期待でき、市民協働の近未来の姿とすべきと感じた。

ただし、仕組みが複雑であるため、三木市で実施するには課題が多く感じられ、研究が必要であると思われる。

#### (3) しごとづくり応援センターについて（東近江市）

一般就労が困難な若者に対し、無料職業紹介所として求職者と地元の事業所を結びつける仕組みづくりは、福祉対策の観点からも必要であると感じた。

また、地元で働く場が無いというイメージを持つ三木市の若者に対して、このような取組の必要性を感じた。

なお、コーディネーターが多忙であり、その人材確保が課題であると感じた。

#### (4) 中心市街地活性化基本計画について（守山市）

市街地活性化と商業振興などを結びつけて全市的な取組が行われており、長年にわたる一貫した取組が大切であると感じた。

地元商店街、関係団体、行政等が連携し、まちづくり公社を中心に、市民全体が未来につながる守山市づくりに取り組んでいることが印象的であった。

中心市街地等の開発手法は、三木市においても参考にできると考える。

(5) デマンド型乗合タクシー「モーリーカー」について（守山市）

既存のバス路線を補完する乗合タクシーの取組によって、高齢者や障がい者、妊娠中の方などの交通弱者にとって外出しやすい環境が整えられており、三木市においても検討に値する課題であると感じた。

また、社会実験を1か月半実施し、利用対象者・運賃などの運行要項を決定した点も参考になった。

また、公共交通に関する予算が約700万円であり、赤字補助もないとのことで、これを参考に三木市においても赤字補助金の適正金額の検討が必要と考える。

(6) 社会福祉法人 共生シンフォニーの事業について（大津市）

他の事業者や行政との連携が非常に密にとられており、障がい者に限らず引きこもりなど、生活に困難を抱えたそれぞれの人に応じた、きめ細やかな対応がとれる体制が整えられている。

また、「最終的な目標は“(福)共生シンフォニーが必要でなくなる社会”の実現」との言葉が印象的であった。

第5期三木市障害福祉計画に活かすことができるよう注視していきたい。